

微笑みのタイ国は第二の故郷

三多摩支会 国際部

千葉 榮治

30 余年前の若き日にタイ国 KMITL
(キングモンクット王工科大学ラカバン)
に留学し卒業した。平成 22 年 8 月に母
校の創立 50 周年記念に日本からの留学
生 OB として招待されて参加した。タイ
は笑顔を取り戻せる第二の故郷である。



KMITL50 周年記念

キャンパスと King Mongkut (ラマ 4 世)



(シリトン王女を待つ VIP 会場)



(優しかったナロン先生に再開)



(案内役の後輩と私)

私が留学した時期は、ベトナム戦争が終結した 1975 年(昭和 50 年)の 2 年後の 1977 年(昭和 52 年)であった。当時インドシナがドミノ倒しの様に赤化するとの恐れがあり、まだ戒厳令が敷かれていた頃であった。

留学中はタイ語で授業を受けた。留学前にタイ語を熱心に勉強しタイ語の弁論大会にも出た。当時タイ語を勉強するものはタイ人と結婚する女性か、インドシナ情勢を学ぶ自衛官で一般人がタイ語を学ぶのは珍

しいとされていた。タイ語は日本語と同じように女性語と男性語がある。夜の街で覚えたタイ語が公式の場で使えないのはそのためである。



(晩さん会でのタイダンス)

タイは仏教国で冷静沈着なところもあるが熱しやすいところもある。恒例のようにクーデターが起こる。今年はようやく赤シャツ組と黄色シャツ組の政争が一応終結してタイで初めての女性の首相が誕生した。

東南アジアは女性の大統領や首相が多い地域でもある。南の国は女が良く働く、女性が一家や国を支えていると言っても過言ではない。タイの女性は中国の女性ほど気が強くないが、女性はどこの国でも生活力があり、気が強いものである。日本の女性は比較的我慢強いと思うがそろそろ女性の首相が誕生してもいい頃かもしれない。

最初に苦労したのは食事である。どれも辛くてどこに味があるのかと涙がでるほどであった。しかし、一旦なれると日本の料理が塩辛いだけでどこがおいしいのかと思うほどであった。食事は辛いですが果物は甘い。どれもこれも甘くて日本の甘酸っぱい果物が食べたくなる。酸っぱい果物は小さな青いレモンとまだ熟れない青いマンゴーだ。青いマンゴーに塩をつけて食べている

と結構おいしい。あんまりよく食べていたので妊娠しているのかと聞かれたことがある。日本では梅干しが好まれるようだがタイでは青いマンゴーが酸っぱくて妊婦には良いらしい。

タイは王国である。私が子供の頃、日本でもどの家にも天皇・皇后の肖像が飾ってあったがタイ国でもどこの家にも必ず王様皇后様の写真が飾ってある。タイでも日本と同じように首相がころころ変わる。変わらぬものがあることはいいことである。

近隣の国は、英国、フランス、オランダに支配された歴史を持つが、タイは緩衝地帯としての役目を持ち王国を維持してきた。どこの国でも隣の国とは仲が悪い。特にアユタヤをつぶしたミャンマーやカンボジアとは紛争が多い。ラオスはタイ語にほぼ近い言葉で歴史的にも関係の深い国である。

私の母校 KMITL は30年前、4000人程度の大学であったが、現在は2万人を抱える総合大学になっている。多くの官僚やビジネスマンをこの大学が輩出している。私の学んだ旧校舎は陰に隠れており現在は大変きれいなメインキャンパスになっている。



大変お世話になった

Dr ゴーソン先生を囲んで



(キャンパスでの式典会場)

大学は、スワンナプーム国際空港の近くである。当時は田んぼが一面に広がっている田舎町であった。単線の列車に乗って風に吹かれて通った所も近代的になっていた。学生たちの服装は変わっていないが、容姿は変わっている。色白の学生が多いのは子供の頃に車で送り迎えされていたよとこの子供たちなのだ。



(先輩面をして後輩たちと)

英国に5年いたから分かるのだが、東アジアは人口も多いが食べ物が豊富で豊かだ。歴史的に見ても先進国がこぞってアジアを支配してきたのは豊かさ故である。東南アジアは小さな国がそれぞれの文化を維持しながらその特徴を生かし生き残れる時代になってきた。初めて行ったところ、きらきら

光るお寺では落ち着かなかったが、今ではお寺の床に座ってのんびりしながら風に吹かれると安心した気持ちになる。お寺の赤い瓦が遠くから見えるのはとてもうれしく思う。

3月から4月が夏である。太陽が真上に来て影が小さくなる。6月から10月にかけては雨季である。このころの果物が一番おいしい。雨季には毎日スコールが来る。日本でいうゲリラ豪雨である。雨雲が移動していくので集中豪雨も移動していく。ちょっと外れると雨が降らないこともある。日本でもゲリラ豪雨が多くなったのは温暖化でタイの気候に近づいたせいかもしれない。

3月11日の震災では親日国のタイが多くの支援をしてくれた。タイのプーミポン国王は、今年84才、12月5日が誕生日である。卒業証書を授けていただいたあの優しい眼差しは今でも忘れない。



32年前プーミポン国王から
卒業証書を授与される筆者

ทรงพระเจริญ

ソン・ブラ・ジャルーン
(王様万歳)